

生殖補助医療技術の発達史と倫理的課題



1978年、イギリスのオールダムで世界初の体外受精児、ルイズ・ブラウンが誕生した。体外受精や関連技術の安全性については、当時から今日に至るまで、医学者、科学者の間でも見解が分かれています。本研究会では、常磐大学の花岡龍毅氏を講師にお迎えし、これまで安全性をめぐるどのような言説が生成され、変容してきたかお話しいただく。その上で、全体ディスカッションを通して今日の生殖関連の諸言説と立法動向を批判的に検討することを目指す。

日時：2015年12月5日（土） 14:00～17:00

場所：立命館大学衣笠キャンパス創思館4F、403、404

参加無料、事前申し込み不要

花岡龍毅（常磐大学）

体外受精技術のリスクをめぐる認識の変遷過程

指定質問：山本由美子（大阪府立大学）

司会：由井秀樹（立命館大学）



立命館大学衣笠キャンパス
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

会場へは公共交通機関をご利用になりお越しく下さい。

アクセス

京都駅より京都市バス（50番）乗車、立命館大学前下車後、すぐ。
所要時間約40分。

・共催
上廣倫理財団研究助成（研究代表者由井秀樹「体外受精研究のフレームに関する歴史研究－1960～80年代の日本の展開」）
立命館大学生存学研究センター若手研究者研究力強化型「出生をめぐる倫理研究会」

・問い合わせ先
hdk-yui@fc.ritsumei.ac.jp（由井秀樹）